

センターだより

平成29年11月29日 No.60
東濃西部少年センター TEL23-3455 FAX26-8813

所 長 加 納 昭 仁
指導主任 坂 井 正 昭
事 務 柴 田 弥 生

3 地区合同研修会

10月14日(土)に土岐市文化プラザのルナホールにて3地区(多治見・瑞浪・土岐)の少年指導員を対象に研修会を実施しました。岐阜県青少年SOSセンターの今井田康雄所長に「誰もが輝く青少年の明日のために...」という演題でご講演いただきました。センターでの相談活動を通して現代の若者が抱える問題を様々な角度から捉え、わかりやすく説明していただきました。講演の趣旨については、岐阜新聞の「素描」欄に投稿されていまして紹介をもって説明とします。



素描

問われる地域力

岐阜県青少年SOSセンター長 今井田 康雄

県は平成28年度からの5年間を対象として、「第3次県青少年健全育成計画～ぎふ子ども・若者プラン～」を作成しました。その基本方針は、「安全・安心な社会環境の整備」「困難を有する子ども・若者の支援」「青少年の自立支援」「家庭・地域社会での青少年健全育成」の4本柱です。その中には当センターの「総合相談窓口の機能強化と周知」も含まれています。特に、私はこの計画におけるキーワードは『地域力』だと考えます。

例えば、最近耳にする子どもの「貧困」について、法政大学の湯浅誠教授は「貧困＝金銭的な問題＋孤立」と語っています。家庭内の悩みは他人に言いづらく、精神的に追い込まれがちです。引きこもりや非行傾向の子がいる場合も同様で、地域内で疎外感を感じることも推察されます。

そんな中で今、「子ども食堂」が話題です。行政の支援も期待されますが、尽力されている方の御苦労に頭が下がります。仕事や家庭、子育てに追われる親さんにとり、月数回でもほっとできる場だとも聞こえてきます。この食堂が地域コミュニティーの場として、誰もが気軽に訪れ、会話や交流を楽しみ、価値観を共有し、地域や対象の家庭を見守る場になることが、より有効な手立てになると思うのです。

これは一例でしたが、今後『地域力』向上の機運が高まり、一層充実した活動の推進を期待したいと思います。将来を担う青少年を育てる大人の責務を再認識し、自分の可能な一歩を踏み出す行動を起こしていきたいものですね。どの青少年にも輝く未来や可能性があることを信じて...

11月11日(土) 多治見駅での「子ども・若者育成支援強調月間」啓発活動

強調月間全国スローガン

支えよう輝くひとの夢みらい

早朝、9時30分のオープニングセレモニーから活動がスタートしました。多治見高等学校吹奏楽部の演奏、同校生徒会の司会進行と若者の力で会の運営に携わってもらいました。

会の中で、「若者代表あいさつ」を多治見高等学校の柴田剛希生徒会長が少し緊張しながらも堂々と行ってくれました。

その内容を紹介します。



内閣府は、この11月を「子ども・若者育成支援強調月間」と定め、全ての子ども・若者が健やかに成長し、自立・活躍できる社会の実現を目指し、関係機関・団体に対して積極的な取り組みを促しています。これを受け、僕たちも広く市民の理解と協力を呼びかける啓発活動に取り組みます。

これからの時代をつくるのは、僕たち若者です。僕たちを取り巻く社会情勢は決して順風満帆、楽な事ばかりではありません。その将来に向かって、平和でよりよい未来をつくっていくためにも、大人に支えてもらうだけでなく、僕たち自身が積極的に社会に働きかけ行動していくことが求められています。

そして、「街を元気に、街をよりよく」これが僕たちの願いです。僕たちが住む街・地域を愛し、地域に貢献し、地域の活力になりたいと考えています。僕たち若者が元気で、笑顔でいることがその原動力となるはずです。

今年は、多治見高校吹奏楽部や市内それぞれの高校の生徒会、MSリーダーズの仲間たちが中心となって、この活動を盛り上げていきます。

このあと、少年センターの少年指導員の方々と、チラシの配布を行い、この活動に参加したいと思います。よろしくお願いいたします。



古川雅典多治見市長様をはじめとして多くの方に来賓としてご出席いただきました。

多治見市長	古川 雅典 様
多治見警察署生活安全課長	亀山 真弘 様
J R多治見駅助役	熊崎喜代治 様
東濃子ども相談センター所長	伊佐地常範 様
東濃県事務所	
振興防災課青少年育成専門職	安田まきえ 様
J R多治見駅前交番 交番長	須田亜希子 様

多治見高等学校吹奏楽部



「子ども・若者育成支援強調月間」
啓発活動への参加者

高校生徒 71名 中学生徒 21名
 高校先生 10名 中学先生 9名
 少年指導員 31名 来賓 6名
 少年センター所員 3名
 総勢 151名の参加をいただきました。



公益社団法人岐阜県青少年育成県民会議 50周年記念

岐阜県青少年健全育成県民大会

～子どもの健やかな成長を願う県民のつどい～

岐阜県青少年育成県民会議の創立50周年記念大会として、平成29年度の岐阜県青少年健全育成県民大会が、11月26日(日)関市「わかくさ・プラザ 学習情報館 多目的ホール」において盛大に実施されました。

この大会において、東濃西部少年センターの少年指導員の方が、岐阜県環境生活部長表彰及び県民会議会長表彰を受賞しましたので紹介します。

岐阜県環境生活部長表彰：優良少年補導委員等表彰

小倉昌春さん(多治見市)

県民会議会長表彰：優良少年補導委員等顕彰

西村正明さん(多治見市)

小木曾文和さん(瑞浪市)

山下広美さん(土岐市)

石原元さん(多治見市)

林さき子さん(瑞浪市)



「子ども・若者育成支援強調月間」瑞浪市・土岐市の取り組み紹介

瑞浪市では、10月15日(日)から11月19日(日)を強調月間の取り組み期間として、各地区の公民館などを会場にして瑞浪市全体の取り組みとしてきました。最終日の19日には、パロー瑞浪中央店とピアゴ瑞浪店の2会場で啓発活動を行いました。瑞浪市や青少年育成市民会議、瑞浪保護区保護司会、更生保護女性の会、瑞浪市酒類小売販売業組合の方々、そして、瑞浪市内の三つの高等学校(瑞浪高等学校、中京学院大学附属中京高等学校、麗澤瑞浪高等学校)の生徒が参加して行われました。瑞浪の青少年は瑞浪市民の手で、『みとめて ほめて はげまして』というスローガンで行われました。



土岐市は、11月16日(木)の16:00から、土岐市駅前において啓発活動が行われました。土岐市や土岐保護区保護司会、更生保護女性の会、土岐市酒類小売販売業組合の方々、そして、土岐市内の三つの高等学校(土岐紅陵高等学校、土岐商業高等学校、東濃フロンティア高等学校)の生徒が参加して行われました。大変寒い日でしたが、生徒は元気に声をかけながら啓発グッズを手渡していました。

土岐市も瑞浪市と同様に、10月29日(日)から11月16日(木)を強調月間の取り組み期間として、各地区の公民館や学校周辺を会場として行ってきました。土岐市の強調月間では、『大人が変われば、子どもも変わる』『青少年 地域で守ろう 育てよう』というスローガンで実施されました。

また、11月1日・15日には広報街宣車による市民への周知を図る活動も行われました。

東濃西部少年センター 平成29年度上半期の声かけ活動状況

(1) 月別の声かけ状況

区分	年別	4月	5月	6月	7月	8月	夏休 夜間 特別	9月	小計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
活動日数	28年度	14	17	20	17	20	21	16	125	15	18	16	16	18	17	225
	29年度	14	12	15	15	20	18	16	110							
活動回数	28年度	32	34	34	34	29	34	34	231	34	34	33	34	32	33	431
	29年度	28	30	33	32	32	31	31	217							
活動人数	28年度	123	166	157	160	121	155	145	1,027	128	127	133	142	117	127	1,801
	29年度	110	147	152	144	122	144	125	944							
多治見	28年度	63	85	78	86	66	82	68	528	61	63	63	72	63	65	915
	29年度	63	73	72	76	57	72	68	481							
瑞浪	28年度	28	38	34	35	30	32	34	231	32	29	31	33	24	29	409
	29年度	21	33	34	35	33	35	27	218							
土岐	28年度	32	43	45	39	25	41	43	268	35	35	39	37	30	33	477
	29年度	26	41	46	33	32	37	30	245							
指導人数	28年度	3	20	2	20	10	0	20	75	4	3	1	1	2	0	86
	29年度	2	2	0	1	2	6	16	29							
男子	28年度	3	12	2	16	8	0	13	54	4	3	1	1	2	0	65
	29年度	2	2	0	1	2	6	14	27							
女子	28年度	0	8	0	4	2	0	7	21	0	0	0	0	0	0	21
	29年度	0	0	0	0	0	0	2	2							

(2) 行為別の指導状況

(単位:人)

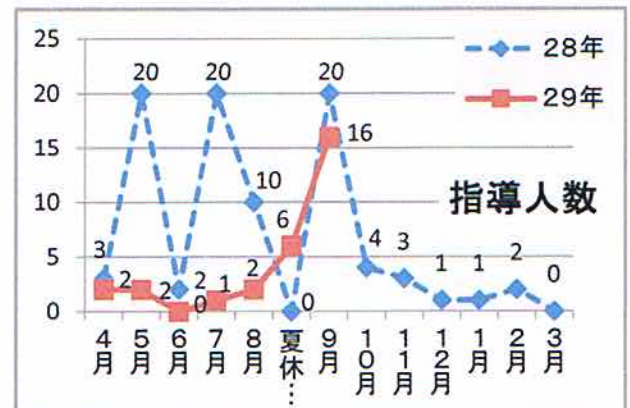
行為別	年度別 男女別	飲	喫	薬物	粗	刃	金	金	性	暴	家	無	深	怠	不	不	※1	※2	※3	※4	※5	合		
		酒	煙	乱用	暴行	物所持	品不正	品持	的いた	走	出	断外	夜はい	学	健全	良交	健全	迷惑	迷惑	有害	自		危	計
28年4~9月	男子	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	33	0	26	2	75
	女子	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	18	0	0	0	21
29年4~9月	男子	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	10	9	2	29
	女子	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2

- ※1 少年の健全育成上、支障のある娯楽に興じる行為。(小・中学生のゲームセンター立入りは保護者同伴が指導基準)
- ※2 公園、空き地、川原等にて、花火やたき火をして、大声で騒ぐなど他人に迷惑をかける行為
- ※3 駅前・駅売店・駅トイレ・コンビニ等にて、たむろ・居座り・飲食・化粧等するなど、利用者、通行人に迷惑をかける行為
- ※4 自転車にて二人乗り、並進、無灯火、携帯電話での片手走行、小学生のヘルメット未装着などの危険な行為
- ※5 道路上にて、サッカー・ドッジボール・スケボー等の遊びをする危険な行為

(3) 学職別の指導状況

(単位:人)

学職別	年度別 男女別	小	中	高	大	未	各	有	無	合
		学生	学生	校生	学生	就学	種学	職少	職少	
28年4~9月	男子	6	11	44	0	0	0	14	0	75
	女子	0	2	17	0	0	0	2	0	21
29年4~9月	男子	14	4	8	0	0	0	3	0	29
	女子	0	0	2	0	0	0	0	0	2



平成29年度 東濃西部少年センター 「声かけ活動」 上半期のまとめ

声かけ活動の実施状況については、5ページの「東濃西部少年センター 平成29年度上半期の声かけ活動状況」を参照してください。

初めに(1)の月別の声かけ状況の表をご覧ください。

29年度上半期の活動日数は110日で、28年度と比べると15日減少していますが、活動日数は、同じ日に2つ以上の班が活動していても1日とカウントしますので、実際の活動状況については、活動回数が指標となります。

上半期の活動回数は217回で、昨年度より14回減少しています。これは、活動単位である班の数が、昨年度の34班から今年度33班と1班減っていることや、悪天候で活動中止になっていることによります。

また、街頭での活動に当たっていただいた指導員の活動人数は944名で、昨年度の1,027名から83名減少しました。昨年度が、数年ぶりに9月までに1,000名を超える増加でしたので、例年並みに戻ったと見ることもできます。

指導人数は、29名で昨年度の75名から大幅に減少しています。昨年度は、駅周辺にたむろして迷惑行為をする少年少女がみられましたが、今年度は大変落ち着いた状況となっています。多治見警察署管内の今年1月から8月までの「少年非行の概況」を見ても、非行少年の総数は前年同期と比べ23人(-53.5%)減少。また、不良行為少年の総数は前年同期に比べ439人(-47.7%)減少とどちらも大幅に減少しています。大変よい状況と言えますが、今後も引き続き注意深く様子を見ていきます。



次に、(2)行為別の指導状況の表をご覧ください。

指導人数の減少は、「喫煙」「不健全娯楽」「迷惑座込み等行為」「自転車関連違反等」に見られます。しかし、昨年度にはなかった「迷惑遊興行為」や「危険な遊び」に増加が見られます。これは、高校生や有職・無職少年による危険な花火遊びや、小学生による道路上での危険な遊びとして出ていました。

次に(3)学職別の指導状況の表をご覧ください。

昨年度と比べ、小学生以外はいずれも減少しました。学職別の指導状況は、小学生の自転車のヘルメット未装着とエアガンでの危険な遊び、中学生は無灯火での自転車、高校生は主に危険な花火遊び、喫煙が有職・無職少年にありました。

自転車関連での指導に関わって、当少年センターでは自転車の安全運転等についての啓発チラシを、3市の高等学校10校の生徒による駅前での啓発活動で配布しています。

平成29年度 東濃西部少年センター 「相談活動」 上半期のまとめ

相談活動の状況について説明します。

電話相談は14件から8件と減少しましたが、メール相談が9件から10件と微増しました。相談合計数では、昨年度の26件から18件になりました。相談内容については、家庭での親子関係・養育に関する相談や交友関係に関する相談等でした。